



30年3月号

<3月の予定>

◎稽古時間： 木曜日・・・17:00～19:00
土曜日・・・15:00～17:00

- 3日(土) 平成29年度後期昇級審査会(駒場体育館 剣道場)
- 4日(日) 埼玉大学寒稽古まとめの会[お礼稽古](埼玉大学 総合体育館)
- 24日(土) 平成29年度浦和少年剣道錬成会・審判講習会(駒場体育館)
- 31日(土) 13:00～17:00 6年生を送る会(駒場体育館 剣道場)
19:00～22:00 6年生の保護者を送る会(浦和パルコ1F チェルシーカフェ)
※夜の修道館のお稽古はありません。

<4月の予定>

◎稽古時間： 木曜日・・・17:00～19:00
土曜日・・・15:00～17:00

- 14日(土) 14:00～15:00 剣道教室第1回受付(駒場体育館 2階会議室)
一級審査会 合同稽古会(大宮武道館)
- 21日(土) 14:00～15:00 剣道教室第2回受付(駒場体育館 2階会議室)
第6回さいたま市剣道大会<大人の大会>(大宮武道館)

<5月の予定>

◎稽古時間： 木曜日・・・17:00～19:00
5月12日より
土曜日・・・13:00～15:00 剣道教室①～③
土曜日・・・15:00～17:00

- 3日(木・祝) 11:00～17:00 第7回浦和地区錬成会(岩槻文化公園 メインアリーナ)
- 12日(土) 15:15～17:00 定期総会(駒場体育館2階 会議室)

◎平成30年度 剣道教室を開催します◎

期間： 5月12日(土)～6月30日(土) 13時～15時 ※毎週土曜日 計8回

場所： 駒場体育館 剣道場

募集学年： 小学2年生～6年生 定員 24名

※お近くに興味がある方がいらしたら、ぜひお声かけください！！

こまけんだよりは公式サイトでもご覧いただけます。是非カラーでもお楽しみください♪

<http://www.geocities.jp/KomabaKenhp/index.html>



本荘先生からのお言葉

春の訪れを感じる季節となりました。稽古に行く時も、ベンチコートは不要となり少し軽い服装で参加できるようになりました。別れと出会いの時期でもあります。6年生は駒剣現役残り1カ月となりました。みんなで大きな声を出し、しっかり稽古しましょう。

さて、平昌冬季五輪が終わりました。日本が史上最高の数のメダルを取ったと盛り上がりました。私も多くの競技をテレビで観戦しましたが、印象に強く残っているのはスピードスケート女子500mで金メダルを取った小平奈緒選手のレースです。前に滑っていた他国の選手が好タイムを出しており、ドキドキしながら応援しました。滑り終え、その時点でトップのタイムを出し、うれしくて興奮しました。その時、小平選手は指を口に当て「次の選手が滑ります。お静かに。」というような仕草を観客席に向かってしたのです。全レースが終わって1位が確定した後も、ライバルに気をかけ肩を抱き合い一緒にリンクを回って声援にこたえる姿がとても美しく見えました。前の五輪で負け単身オランダに渡って武者修行した姿や、一本歯の下駄を履きバランスをとる練習の様子なども見ていたので、小平選手に尊い武士道精神を感じました。



今日は級審査会です。29年度組にとっては初めての審査でした。教えてもらったことが表現できたでしょうか。声を出すこと、大きく正しく打つこと、打つだけでなく打たせることもできること、などがポイントになります。先輩方を見ていると、どうしても速く鋭く、と真似をしてやってみたくくなります。しかし、「基本に忠実に」これが上達の一番の近道です。見ていた家族のアドバイスなども素直に聞く耳を持ち、次の稽古から意識して改善していく、これが大事なのです。


今の6年生は、在籍期間がばらばらで長い者と短い者が混在していますので、現時点では入ったばかりの者より4～5年キャリアを積んだものが技量として上回っているのは当然のことです。ただ、剣道は面白いものでこれからの努力次第で早い段階で「追いつき追い越せ」ができるのです。経験者がもたもたしていると、中学校から始めた者に追い越されることもあります。早く上達しなさいと言っているのではありません。運動神経の良し悪しや身体の大きい小さいよりもコツコツ努力した者が上達するのです。



かかわった期間は違ってもみんな同じ駒剣OB・OGです。ここで出会った縁を大切にしてください。そして、これから成長していくなかで駒剣以外でも「人との縁」を大事にできる人でいてください。昇段時や進路が決まったら、報告、待っています。夏合宿やOB会の参加楽しみにしています。ぜひまた稽古しましょう。私も負けないように精進します。

今月24日(土)には浦和少年錬成大会が駒場体育館で行われます。6年生にとっては小学校生活最後の公式試合になります。有終の美を飾ってください。今年度は、3月31日(土)が6年生を送る会です。恒例の「6年生 対 5年生以下+錬成部員」の試合も予定しています。こんなにギリギリまで卒業させず引っぱったのは初めてのことですね(笑)。

駒剣全員で春らしく軽やかに、そして思い出に残る稽古をしていきましょう。



師範の先生から卒業生へ
お祝いのお言葉をいただきました。

卒業生、卒業生の保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。
加入期間の長さは、それぞれですが、深く駒剣に携わり、ご協力いただき、
駒剣士に愛情を注いでくださり有難うございました。

卒業生へ送る言葉

尾島先生

幼稚園・保育園、小学校とは違う社会（剣道）に集まり、「和」を持って、一つの家族の様になり、心も技も体も成長した6年生の君たちが卒業・巣立ちの時を迎えました。初めは自分の事が出来ず、次は自分の事だけ出来て、そのうち人の世話をして見本となれる先輩になって…その成長の過程が見られて私は本当に幸せと感じます。始めた時期の違い、その時々思いがあったかと思いますが節目の時まで頑張りました。

「我が子だけでなく、駒剣士の事を思い、駒剣を思う」という保護者の方々の熱い心もひしひし伝わってきます。ありがたい事です。

私たちが一つひとつの事を成し遂げてゆく中に、「剣の道と教え」という「1本の柱」があって「共通する芯」があるから同じ思いと同じ方向が向けるのだと思います。

さて中学もまた新たな社会に進んでゆくスタート地点であります。「1本の柱と共通の芯」を中学の仲間と先輩後輩と、先生と、親と探してみてください。

駒場剣友会文集〈第六号〉に載せた文を最後の送る言葉とします。

「うつすとも水は思はず うつるとも月は思はず さる沢の池」
柳生新陰流の開祖、柳生宗厳（石舟斎）の歌で「道歌」ともいう。道歌とは道徳的な教えをわかりやすく読み込んだ和歌の事で、剣の極意や真髄の訓えにも使われています。
水と月は互いに映そう映ろうとはせず、無心で向き合っている。映そうとする水、映ろうとする月と思うのは人間だけで、それでは自然の調和ではなくなる。剣道で言えば、勝とう勝とうとすると心が乱れ隙を生じる。無心の中から技を発するのが大事。心が明らかに澄み切っていれば水面の水のように相手の隙や心が自然に自分の心にも映るといふもの。

「卒業生に送る言葉」

山田先生

寒い寒いと思っても空気が柔らかく感じられ少しずつ春が近づいていることを実感できる気候になってきました。今年もまた六年生のみなさんが、駒場剣友会の小学生会員を卒業する時季になりました。

卒業おめでとうございます。

卒業するみなさんは、それぞれひとりひとり頑張ってきたと思います。その中でそれぞれの悩みがあったと思います。外からみれば上手だと見える人も試合でこうすればよかったああすればよかったと思ったこともたくさんあると思います。まだ始めて日の浅い人はなかなか思うように体が動かない、竹刀がうまく振れない、何だかわからないけど行きたくない。そんなことを何回も思ったことがあるかもしれません。そして、そんなことを乗り越えて卒業することになりました。

剣道続けるぞ、中学ではこんな風にやっついこうと思う人もいれば、もしかしたら、剣道はこれでおしまい、新しくこんなことをやってみようと思っている人もいるかもしれません。

駒剣は剣道の稽古をする会です。剣道を通じて心を正しく鍛えていく、そして、剣道に取り組むために心を正しく鍛えていく会です。正しい心をもって剣道に向き合い、更に正しい方法で稽古に励むことで、技術の上達を目指すとともに心を磨いていくことは、剣道修行の目指すことのひとつだと思います。

そして、このことはこれからのいろいろなことに取り組む時のあり方としてはきっと同じだろうと思います。剣道でなくてもどんな運動でもあるいは芸術や勉強、何かを研究することに対してもきっと同じように取り組んでいくことが求められると思います。正しい心でそのことに向かい合い、正しい方法で取組み練習を続ける。

みなさんはまだ完全ではありませんが、そうしていこうとする心構えは駒剣で学んだと思います。

うまくいかなかったら悩むことも、何だかわからないけど行きたくないと思うこともまたあるかもしれません。そして、今まさに悩んでいる人も心配しないでください。正しい心で正しくそのことに対して向き合うことできつと進んでいくはずですよ。そのことだけが間違いなく続けられる道だと思います。ぜひ、その心構えを忘れずに物事に取り組んでください。

最後にみなさんは駒剣の仲間です。これからしばらく剣道から離れるひともずっと駒剣の仲間です。正しい道を歩いているつもりでもなかなかうまくいかないと思ったら、駒剣にきてください。うまく進んでいると思ったら、そのときもぜひ駒剣に来てください。私たちはみなさんをずっと見守っています。そして、みなさんも駒剣を見守って行ってください。卒業おめでとう。

卒業おめでとう

2018年3月 木村先生

飯田君、岩崎君、大武君、齊藤君、佐藤君、杉山君、鈴木君、住屋君、高木君、西岡さん、武笠君、渡邊君、卒業おめでとう。心身共に大きく成長した君たちの姿が、頼もしく思われ、元気に卒業の日が迎えられたことをたいへん嬉しく思います。

これから君たちはそれぞれ中学校へと進み、新しい生活のスタートに期待と希望で一杯かと思えます。新しいスタートラインに立ち、新しい第一歩を踏み出して行きます。そして、卒業というこの時期に、ひととき立ち止まって、自分が剣道を通じて何を学んだのか思い浮かべてください。

稽古後の礼式時に『柳生家の家訓』のお話をしたことを覚えている人もいるかもしれません。剣豪で徳川家の剣術指南役であった柳生家に残された有名な家訓です。『小才は、縁に会って縁に気づかず。中才は、縁に気づいて縁を生かさず。大才は、袖振り合う縁をも生かす。』

この内容は、世の中に大事なことはたくさんあるが、『縁をいかす』人生こそが大事なことであることを説いています。友達を大事にする。困っている人を助ける。すべての人に感謝する。これらの内容は、君たちが駒場剣友会で学んできたことと全く同じ内容です。これからも、駒場剣友会の縁を大切に、学校や剣道や地域の縁を大切に、皆に感謝の気持ちを持ち続けて元気な中学生になって欲しいと願っています。

少し難しいですが、『柳生家の家訓』をもう少し踏み込んでみると、小才・中才・大才の『才』とは何だろうと疑問になってきます。私は、『才』とは『縁』というチャンスを掴むことのできる感性ではないかと思っています。そして、この感性を作り上げて育ててゆくのは、明らかに自分の『意志』だと考えます。このような人になりたい、このようなことをしたいとの『意志』が明確な人は、『縁』というチャンスを生かせることができるということを柳生家は家訓として代々語り伝えたということでしょう。

夢の実現に向かってチャレンジし続ける『意志』を持てば、いつもは気づかない『縁』を生かしてチャンスを掴む可能性が大きいということです。私は、君達に誰にも負けない熱い夢を抱き、その夢の実現に向けてチャレンジし続ける強い『意志』を持ち続けて欲しいと願っています。そしてその後には、自分の夢や、やりたいことなど『自分の思いを伝えられる人』にもなってもらいたいと願います。『自分の思いを伝えられる人』になれば、小さな『縁』も十分に生かして夢の実現が大きく近づいて来ることでしょ。君たちの『思い』を聞く日も遠くないと思っています。

これまで続けて来た稽古の経験を活かして、達成したことに誇りと自信を持って、それぞれの次の道に向かって努力してほしいと思います。

これからも成長した姿を駒剣の仲間達に見せにきてください。卒業おめでとう。

新ジャイアンのはなうた♪



よっ！ みんな、元気か？

あっという間に3月。6年生は、いよいよ卒業だな。

6年生のみんなが、駒剣に入ってきた時のことを思い出すと、本当にみんな剣道だけじゃなくて、人間としても成長したなあ、なんて思っちゃうぜ。中学に行って、剣道を続ける人も、剣道をお休みする人も、たまには駒剣に遊びに来て、元気な姿を見せてくれよな。

さて、最近の稽古で感じてることなんだけど、赤タスキがとれた29年組が、「めきめきと上達しているな」とジャイアンは感心してるんだ。気合いも出ているし、面打ちや切り返し、その他の技もだんだん上達しているぞ。この調子で、頑張ってるよな。

ところで、だんだん上達してくると、同じ29年組でも、差がついてくるぞ。防具をつけるのが早

い人、気合いが出ている人、面打ちが上手な人、切り返しが上手な人、試合になると強い人といった自分よりも上手な人が出てくるぞ。大切なのは、ここだぞ。自分より上手だなと思ったら、その人を真似て、その人と同じようにできるよう努力しよう。そして、その人と同じように、できればその人よりも上手になってしまおう。

こんなふうを考えて稽古をするのと、ただぼんやりと「〇〇君は防具付けるの早いな」とか「面が上手だな」と考えるだけで稽古をするのでは、これからの上達がぜんぜん違うぞ。剣道は、頭で考えてもなかなか上達しないぞ。実際にやってみて、色々試してみて、だんだん上達していくもんなんだ。そして、自分より上手な人がいれば、どんどんマネをして、友達や先輩の良いところを自分のものにしてしまおう。

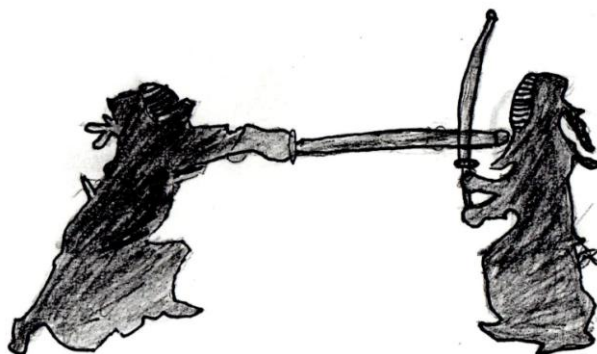
次に、かかり稽古についてまたひと言。

かかり稽古では、よけたりせずに、どんどんあいているところを打っていくように言っているよな。この点は、みんなできるようになってきているような気がするな。でも、待っているところがダメだな。強い人は、前の人が終わるときには、竹刀を構えてすぐに打てるように準備していて、自分の番が来たら、すぐに打ってくるぞ。ところが、自分の番になって、元立ちの先生にうながされてから、竹刀を構えて、やっと打ち始める人がいるぞ。これでは準備していてすぐに打ちはじめる人と比べると打てる本数が2本くらい少なくなってしまうぞ。かかり稽古は、前の人が終わったらすぐにかかれるように準備して待とうぜ。

最後に、特に29年組にいいことだけど、2人組になるときは、遠慮せず、先生や自分より上の人と組むようにしよう。また、元立ち稽古のときは、色々な先生にかかるようにしよう。だって、上手になりたいなら、上手な人とやらなきゃな。遠慮していたらだめだぞ。

逆に、先輩たちは、後輩と組むときは、見本になるように、自分の姿勢、技で示してやろう。後輩だからって適当にやってたんじゃ、稽古にならないし、変なクセがついてしまうぞ。どこに気をつけたいかを考えて、そのことが相手に分かるように、見せてやるのが、自分の稽古になるんだ。上の人と組んだときは、良いところを真似るように、下の人と組んだ時は、見本を見せられるように、そんな気持ちで稽古をすると、上達すると思うぞ。

じゃ、またな！



絵 佐藤くん

太郎の百錬自得



第48回

2月は毎年あつという間に過ぎていく気がしますが、今年も早かったです。今回は自分のためにも慌ただしかった2月を振り返ってみます。

4日、都道府県予選会(副将の部)に出場してきました。初戦は勝つことができましたが、2回戦はシード選手との対戦になり、敗退でした。仕掛けの早さ、間合いの見極めなど相手の素晴らしいところを感じました。試合に出て、課題ができると、その後の稽古にも楽しみが増えるなど思いました。

10, 11, 12日の三連休、最終日12日は所沢市長旗剣道大会でした。これは中学生対象の大会で、本太中をはじめ、さいたま市からは木崎中、土合中、美園中が参加していました。ちなみに本太中は初戦対沼田中で、勝ち上がったのですが、二回戦は城北埼玉中(3年生チーム)と対戦し、敗退でした。参加した中学生たちは、市外のチームとの対戦という貴重な経験ができたと思います。

17日は、称号認定会及び八段受審者講習のお手伝い。なかでも八段合格を目指されている先生方の立ち合いは気迫の入ったもので、勉強になりました。打ちきるといふこと、乗るといふこと、下がらないといふこと、大事ですね。なかなかできるものではありません。

24日は、学連審判講習会に参加。審判をするうえで大事なものは、やはり実践。経験を積むことで上手になると香田先輩(筑波大)がお話されていました。今年も審判をさせてもらうことがあるかと思うし、良い機会になりました。

3月も、土日は試合や錬成会などが盛りだくさんです。体調をしっかりと整えて、楽しみながら過ごしたいと思います。

また、今後一級審査や初段～三段審査を受審される方もいますので、5時からの修道館で形や木刀による剣道基本稽古法の稽古もできるだけ参加したいと思っています。

形や基本稽古法は、所作や流れを一通り覚えるまでで、かなり大変ですが、まずは流れを把握することだと思います。私はひとつひとつの所作を全部完璧にしながらかえていくより、少々間違っても一通り流せるようになるほうが良いと思います。

一番大事な理合は難しいですが、これはそれぞれの段位で各自稽古して、少しずつ身につけていくことだと思います。

さて、「兵法家伝書」の続きです。先月は、「敵をおびき出す術」でした。今回は「心と体の関係をコントロールする」です。

心と身とに懸待ある事。心をば待に、身をば懸にすべし。なぜなれば、心が懸なれば、はしり過て悪程に、心をばひかえて、待に持て、身を懸にして、敵に先をさせて勝べき也。心が懸なれば、人をまづきらんとし負をとる也。要約すると、

心と体の関係にも、「懸」「待」の道理がある。これは、心は「待」に、体は「懸」にするのだ。なぜならば、心を「懸」でいると、暴走しがちでよくないからで、心は控え目の「待」の状態にしておいて、体を積極的な「懸」の態勢しておくことで、敵に先手をとらせようとさせて勝つことができるのである。もし、心が「懸」の状態でいると、まず人を切ろうとして、かえって負けてしまうものである。

ということになります。これも難しいですね。ただ、「とかく敵に先をさせて勝也」というのが柳生の核心のひとつといわれます。ひたすら仕掛けて勝つ、というのとは違うのが特徴です。この柳生宗矩は、別の伝書には、相手が打ち出すところを勝つか、打ってこない相手には誘って打たせて勝つか、誘いに相手が乗ってこない場合は、こちらから打って相手がそこを打とうとするところを勝つ、という3つの勝つポイントを説明していたりします。

そして、自分が打ちたいばかりに打つことは柳生新陰流では間違いだ、とも言っています。私なんかは耳が痛いところです。剣道は技が打てるようになっても勝てないというのは、こういう駆け引きが超重要だからなのですね。

以上

卒業生&保護者の方から駒剣の皆さんへ…

卒業に際し、6年生と保護者の皆さんに溢れる想いを書いていただきました。共に過ごした時間を思い返しながら、じっくりご覧ください。

飯田くん

僕は、4年生の剣道教室から入会しました。初めて見学をした時に先輩方の剣道に圧倒され、憧れたことを今でも覚えています。

剣道教室がとても楽しく、剣道がすぐに好きになりました。

また、先生、先輩方にとっても優しく教えていただき、本当に嬉しかったです。先輩方と一緒に稽古をするようになってからは、初めのうちは稽古をやり遂げるので精一杯でした。

しかし、先生方に沢山誉めていただいたのでやる気がわきました。稽古をやっていくうちに癖がついてきたりして、先生に注意されることも増えてきました。また、最初は試合で勝てたのになかなか勝てなくなってきて、つまらないなあとすることもありました。頑張って稽古を続けていました。

6年生になってキャプテンを任されました。初めは、剣道の経験も少ない僕が主将で良いのだろうかという気持ちがありました。でも、選ばれたからには頑張ろうと思い、準備体操や素振りの順番を一生懸命覚えめました。

僕はあまり掛かり稽古が好きではなく、4、5年生のときはサボってしまうことも時々ありました。でも、6年生では、実績がないので稽古への姿勢で後輩を引っ張っていこうという目標を立てていました。掛かり稽古をやめたいと思ったこともありました。でも、もしやめてしまったら後輩への示しが見つからないと思い、この一年間は一度も途中でやめませんでした。それを続けていって、今ではだいぶ好きになりました。

主将をやらせていただいて、自分で考えて行動する力がつきました。また、合宿で選手宣誓をして人前で話す力もつきました。本当に勉強になりました。

僕は、これからも大好きな剣道を続けていきたいと思います。

最後になりますが、僕が駒剣で頑張ってきたのも、熱心に指導してくださった先生方、優しく声をかけてくださった先輩方、一緒に稽古してくれた小学生のみんな、サポートしてくださった後援部の方々のおかげです。3年間本当にありがとうございました。中学生になっても、駒剣の稽古に来させていただくのでその時はよろしくお願ひいたします。

佐藤くん

ぼくは2年生の時に駒場剣友会に入りました。

入会した時は、いやいやで行っていて剣道は好きではありませんでした。でも、4年生の時に初めて試合に勝つことができ、剣道は楽しいという事が分かりました。

いつも優しく教えてくれた先生方、みんなの事を支えてくれた保護者の皆さん、そして今まで一緒にがんばってきた駒剣の皆さん、本当にありがとうございました。

中学校でもがんばりたいと思います。

武笠くん

僕は二年生の時から五年間駒剣にお世話になりました。

始めたばかりの時は剣道は好きではありませんでした。しかし、先生や先輩方に優しくご指導していただいて、剣道が好きになりました。

寒稽古に初めて参加をした時は朝早く起きるのがつらいと思いましたが、通ううちにだんだん楽しくなり、6年生で皆勤をすることができました。連れていってくれた親に感謝をしています。

駒剣では普段の稽古だけでなく、夏合宿や大会などたくさんの方にお世話になりました。

先生方、保護者の方々、駒剣の皆さん、今までありがとうございました。

- 岩崎くん** 礼式や稽古、たまには試合をし、みんなと稽古をしたことで少しだけ強くなれて試合では高木くんと戦ったとき押しがすごい！と思いました。ころびそうになるくらい耐えるのがつらかったです。やるなーと思って負けずと押ししたけれどピクリとも動かずランニングでもしようかなと思いました。みんなが居て強くなれたし、みんなが居なければ少ししか成長しなかったとぼくは思う。剣道はともに成長するからいっしょにやるのが重要なことだ。中学になったらまたやろうと思ってます。1年間という短い間でしたがご指導してくださった先生方、ありがとうございました！
- 大武くん** 私は約二年間お世話になりました。剣道教室初日、市の相撲大会で骨折し、しばらく見とりでした。竹刀を握ったのは、剣道教室も後半に差し掛かった頃です。正式入会し、赤袴になり、かなり緊張していたのを今でも覚えています。そんな緊張感も次第に薄れていき、周囲に溶け込んでいきました。剣さばきは駒剣で一番下手くそだったのが、ようやく少しはかたちになってきた気がします。本荘先生をはじめ師範の先生方、錬成部の先生方、そしてアドバイスをくれた仲間たちみんなのお陰です。まだまだ習うべきこともあり、つらいこと(泣)もありますが、根気強く頑張ってみようと思います。今までありがとうございました
- 齊藤くん** 僕は2年生から5年間、駒剣に通ってお世話になってきました。始めた時は、あまりなじめず、剣道が苦手で苦しいところだと思っていましたが、先輩方や先生方に支えられて6年生まで続けることができました。最後に埼大の寒稽古にも参加できて、おいしい甘酒が飲めてうれしかったです。中学では卓球部に入りますが、修道館などでお世話になるのでよろしくお願います。いままでありがとうございました
- 杉山くん** 1年間という短い間でしたがお世話になりました。初めて剣道教室に行くときは少し不安だったけれど、優しい先生や仲間たちのおかげで楽しく稽古に行くことができました。駒剣では剣道の基本だけでなく礼儀なども学ぶことができました。ただ、1年間はあっという間でした。もっと駒剣の先生方からご指導してもらいたかったです。駒剣の先生方は、僕の良かったところ、悪かったところを細かく教えてくれて、とても嬉しかったです。1年間ありがとうございました。
- 鈴木くん** 僕は駒剣で初めて小手を打たれた時の骨にひびくような感覚が今でも忘れられません。埼大の寒稽古では、寒くて真っ暗な中での早起きが辛くて仕方ありませんでした。稽古の後の甘酒は最高に美味しかったけれど…。しかしどんな時もがんばれたのは一緒に稽古をしてくれた駒剣の仲間がいてくれたからだと思います。お世話になった先生方、先輩方、お父さんお母さん方、そして駒剣の仲間の皆さん、本当にありがとうございました。
- 住屋くん** 僕は、小学2年生から6年生まで駒剣に5年間お世話になりました。自分は最初、剣道に入るつもりはなく、入ってみて稽古がつまらないと思っていました。しかし、続けていくうちに、試合をしたり、先生方に誉めてもらったり、駒剣の先輩方や仲間と仲良くなり、楽しくなってきました。先生方、保護者の方々、駒剣の皆さん、ありがとうございました。中学校でも剣道を続けます。5年間、有難う御座いました。

高木くん

あまり稽古に行けなかったけど、優しくしてもらえてとても嬉しかったです。ありがとうございました。

西岡さん

私は、1年間というとても短い間だったけれど、とても充実した1年間でした。最初は「何か違う事をやってみたい！」という思いで入りました。でも、やってみると難しい事がたくさんで、「なんで入っちゃったのかな」なんて思ってしまう事も多々ありました。でも、最後まで出来たのは、いつも教えてくれる先生方や保護者の皆さま、そしていろんなことを教えてくれる仲間がいたからだと思います。私にとって、剣道についてたくさん知れた1年だったと思います。この1年、ありがとうございました。

渡邊くん

2年生の時に駒剣に入会し、5年間剣道を続けてきました。この5年間、剣道で頂いた賞状は25枚になります。これは、駒剣の先生方や仲間たちと日々の稽古を積み重ねた結果だと思います。今は剣道が大好きだけれど、一時期、剣道に対する意欲が低下していた時期も正直ありました。しかし、尊敬する先生方や先輩、仲間たちがいてくれたおかげでここまで続けることができました。また、4年生で初めて公式戦で3位になり、メダルを獲れた時の喜びが、もっと強くなりたい、もっと稽古をしたいという気持ちにつながったと思います。駒剣での一番の思い出は3年生の時から参加している合宿です。合宿での稽古や駒剣のみんなと3日間ずっと一緒に過ごす時間が毎年楽しみで、あと二回しか参加できないのが残念でなりません。

まだ、歴代の6年生たちのようには成りきれていないところもあると思いますが、来年の6年生たちに駒剣の良い伝統を引き継いでもらえるよう、あと1か月間を大切に過ごしていきたいと思います。先生方、保護者の方々、駒剣の仲間たち、今までどうもありがとうございました。中学に入ったら部活などで忙しくなるとは思いますが、できるだけ駒剣に顔を出したいと思っているので、これからもよろしくをお願いします。

飯田さん(母)



早いもので、駒剣の門を叩いて、3年の月日が経ちました。初めて、見学に伺った稽古では、親の私は迫力に圧倒され、目がパチパチしてしまったのですが、横にいる息子は目を輝かせていました。

師範の先生方、錬成部の先生方の、熱心で愛情深い、温かいご指導のおかげで、隼士は日を追うごとに剣道の魅力に引き込まれていきました。先生方のご指導を受け、その佇まいを肌で感じて、今では小さい頃の怖がりの隼士はどこへ行ったのか、少し落ち着いた雰囲気になりました。そして、優しく声をかけてくれた仲間のおかげで、駒剣に馴染むことが出来、いつしか切磋琢磨出来るようになりました。プレッシャーで悩んでいることも多かったです。毎日に意識も変わっていき、最後の一年は、力を振り絞って全力で頑張っていました。私は仕事の関係で十分に関わらず、稽古がみられず、それが悩みでしたが、後援部(OB・OG、現役)の皆様が、親が見ていないことでも誉めてくださったり、気付いたことを教えてくださり、支えてくださいました。このように、皆様のおかげで、入会以降、駒剣でも学校でも、多少の問題があつたとしても、物事に向き合う気持ちが強くなり、他の色々なことにも一生懸命取り組むことが出来るようになったと思います。今では、剣道・駒剣は、隼士の生活の軸になっています。この先、隼士には、駒剣で育てていただいた感謝の気持ちを忘れず、戴いたご縁を大切に、教えて戴いたことを『根っこ』に、どんな環境であっても頑張っていってほしいと思います。また、親としても、丸山先生の遺してくださったお言葉『駒剣の浮沈は後援部の方々の会を愛する心・育てる力にかかっている～』を忘れずに、残りの2年、駒剣に関わっていきたく思っております。本当にありがとうございました。今後とも、ご指導よろしく申し上げます。

佐藤さん(母)



雄次朗が駒剣と出会えたのは小2の春。幼少期から人見知りもなく、自由奔放である息子に礼儀、規律を重んじる環境で心も体も強くなって欲しいと思い、剣道教室の参加を勧めた事がきっかけでした。

始めた頃は、なかなか気持ちものらず、木曜日の送迎が難しかった時期もあり、土曜日だけの参加でした。

合宿や行事の中で駒剣の方々と触れ合う楽しい時間に駒剣という場所が好きになり、剣道に対しての興味が増してきたようでした。

小4の時。学校の参観日で行なった1/2成人式において「戦う時には強い心を、困っている人がいたら助けてあげる優しい気持ちをもった剣士になりたい」とハタチの夢を語った息子。

温かい駒剣という場で色々と感じ取っていたようです。

現在12歳、5年間という人生半分近くを駒剣で学ばせていただきました。

ここから巣立ち、またそれぞれの中学校で新たな道に進みますが、駒剣でいただいたご縁、ご恩を忘れずにこれからも感謝の気持ちを持って色々な事に頑張ってもらいたいと願っています。

師範の先生方、錬成部の先生方、保護者の皆さま、今まで一緒に育ててくださいまして本当にありがとうございました。

稽古を共にしてくれた駒剣士の仲間たち、みんなが一緒だったから雄次朗は卒業まで頑張れました。

皆さまに、感謝の気持ちでいっぱいです。

武笠さん(母)



駒剣に入会して5年間お世話になりました。奏志が剣道をするのは経験者の主人の方針で既定路線となっていました。主人は3人兄弟の長男で兄弟全員が道場に通う剣道一家で育ちました。実家の部屋の壁一面に並ぶ賞状が彼らの経験を物語っています。奏志が剣道を始めて主人だけでなく祖父母もうれしく感じていたことと思います。

しかし本人にとってほぼ強制だったせいか、入会当初は剣道を嫌がって連れて行くことに苦勞をしました。3年生に上がった頃、当時6年生の山崎さんのお母さんに送迎をしていただいたことで、一緒に話せるお姉さんができて楽しく剣道に行けるようになりました。そこから剣道に対する思いに少しずつ変化が出てきたように思えます。

私も駒剣で保護者として剣道に係わるようになり、いつの間にか剣道に魅了されてしまいました。職場の同僚で中高生の息子さん2人が剣道部所属のお母さんと仲良くなり、年中剣道の話に花が咲いています。息子の話題だけでなく全日本剣道選手権や剣道川柳で盛り上がったこと、木刀を持参してお昼休みに日本剣道形の練習をしたこともありました。母同士がマニアとなってしまいました。独身時代には今の自分が全く想像できなかったことを思うと、武道との出会いが人生を豊かにしてくれたのだと思います。

剣道を通して奏志を見てダメ出しばかりしてしまいましたが、私たち両親が教えてこなかったことがいつの間にかできていることに驚かされることもありました。稽古は苦しくても休まない、打たれて体が痛くても相手に気を遣わせないためにぐっと堪えたりと、いつの間にか強い気持ちの持ち主になっていました。道場訓「剣は心なり」を彼らしく体現しているのかと思います。

あんなに嫌々だった剣道でここまで成長ができたのは師範の先生方と錬成部の先生方のご指導、温かく見守ってくれた保護者の力、共に稽古をする仲間の存在があったからです。稽古以外の場でも楽しい時間がたくさんあり、優しい大人に囲まれて育つことができ彼は本当に幸せだと思います。

家族皆が駒剣に感謝をしています。ありがとうございました。

岩崎さん(母)



6年生になってからの入会でしたがあたたかく迎えてくださり、感謝しております。初心者教室では、一つ一つの動作の意味や、そこに込められた思いなど教えて下さり、日本の武道の深さを知りました。身体の治療があり、出席できた日は多くありませんが、それでも稽古ができた日は充実した表情をしているのが印象的でした。先生方、保護者の皆様のお力添えがあってこそ『こまけん』！もっと早くに入会できていればと悔やまれますが、短い間でも皆様と一緒させていただいたことを嬉しく思っております。ありがとうございました。

大武さん(母)



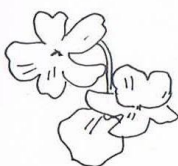
4年生の今ごろ、突然『剣道やりたい！』の宣言から始まった駒剣生活でした。気分にはムラがあり、やる気メーターの上下が激しく、夏の暑さにめっぽう弱い…ハラハラしながら見守りました。週に一度のお稽古でしたが、本人との約束通り卒業まで続けられたのは奇跡に近く、よく頑張ったと思います。ひとつの事がうまく回りだすと、こんなにも気持ちが変わっていくのだと成長を感じた頃に卒業となりました。せめてあと一年くらい前から始めていたら…と思うのは、親の欲目でしょうか(笑)

本人の頑張りはもちろんですが、師範の先生方、錬成部の先生方、保護者の皆様のご指導と心遣いのお陰です。そして支え励ましてくれた仲間たち。感謝の一言に尽きます。

私個人としては、見るもの、やることのすべてが興味津々でした。礼式で静寂に包まれる道場。気合いの入った声、竹刀のぶつかる音、踏み込みの音が混ざって響く道場。どちらの雰囲気も好きでした。間近で剣道を感じることができ、貴重な体験でした。

心残りは、皆さんに教えてもらえばかりで、何のお返しもできなかったこと。どこか別の場所で、駒剣から頂いた気持ちを生かしていけたらと思います。最後にもう一度、皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

齊藤さん(母)



卒業生のお母様から剣道教室のチラシをいただき、タイミングよく申込みができたところから駒剣との関わりが与えられました。2年生で剣道教室に参加し、この5年間大変お世話になりました。

入会した年のキャプテン、副キャプテンの駒剣士としての勇姿に母の私が憧れ、その年の6送会に衝撃的な感動を覚え、言生もこの日を迎えるまではという願いを持ち続けてきました。木曜と土曜は剣道に行くものとは無言を言わせない状態であり、しぶしぶという態度も見受けられましたが、それでもここまで続けてきたことは無駄にはならず後に大きな力となっていくことと信じています。6年生になり最後となる夏合宿には参加させたいと申込んだ矢先、腰を痛め断念しました。約5ヶ月剣道ができなくなり、リハビリを続けながら、見とり稽古に通いました。やる気はなくなる一方で道場を出たり入ったりでご迷惑をおかけしました。卒業を前に剣道も再開できるようになり、最後の錬成会には団体戦の選手として出場できることになり、ほんの少し熱があがってきたように感じています。中学で卓球部に入ってしまうのはもったいないようにも思いますが、またいつか本人が剣道をやりたいという思いを持って再開するようになればと願っています。

言生が駒剣で剣道をはじめなかったら、言生がここまで続けてこなかったら、私自身、剣道をはじめたことも続けてくることもできなかったと思います。ありがとうございましたと感謝しています。

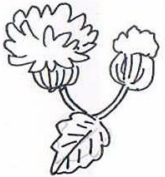
最後になりましたが、師範の先生方、錬成部の先生方、ご指導くださり、励まし見守り続けてくださりありがとうございました。共に稽古に励んでくださった先輩方、小学生会員の皆様ありがとうございました。保護者の皆様にも大変お世話になりました。お支えくださりありがとうございました。

杉山さん(母)



1年間という短い間でしたが、大変お世話になりました。
5年生の夏頃に、駒剣のことを知り、剣道教室が始まるまで半年待っての入会でした。達哉の剣道に対する思いも少しずつ深まっていき、怪我の時以外は熱心に通っていました。
駒剣では、剣道以外にも大切なことをたくさん教えていただきました。
もっと早く駒剣のことを知っていたら、もっと長く先生方や駒剣の仲間とお稽古ができたなら良かったなと思いますが、中学生になっても剣道続けるのですので駒剣での教えを胸に、これからも頑張りたいと願っています。
今までご指導くださった先生方、成人会員の皆様、保護者の皆様、本当にありがとうございました。

鈴木さん(母)



休会中も含め二年間、駒剣の先生方、成人会員の皆様、保護者の皆様、先輩方、そして一緒にお稽古をしてくれたなかまの皆さんに心から感謝の気持ちでいっぱいです。
この道場で教えていただいたことそして学んだことは、蓮のこれからの人生できっと大きな糧となると信じております。
礼式での黙想や先生方のお話は、私たちにとりまして大変貴重な学びの時間でした。
たくさんのお話を教えていただきまして本当にありがとうございました。

住屋さん(母)



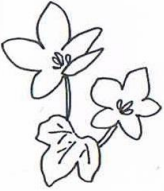
駒剣には、今、高一になった兄が5年生の剣道教室からお世話になっております。あっという間、6年がたちました。兄に続き、下の子は2年生から入会しました。入会した日に、当時の副部長さん並びに役員の方々に、「おめでとうございます。」と、声をかけていただきとても嬉しく思いました。入会した日は、只、剣友会に入った日ではなく、小学校の入学式のように、剣道を始めた第一歩の記念日だと感じました。
成は、手のかかる子でした。礼式の時、じっと座ってられない。
練習中集中力に力を入れる。そんな子に、自分の子供のように優しく時に厳しく、先生方、副部長さん、お当番にいらしていたお母様方にご指導をしていただきました。そんな皆さんに、負担にならないような、お当番制作をさせていただきました。それでも、お当番を負担と感じられた方いらしたようで、私の至らないところでは、申し訳なく思っております。
成は、負けず嫌いな所があり、先生方に試合で負けた時に、感想を聞かれて「悔しくない!!」と言い張ってましたが、実際はかなり悔しがっていました。寒稽古中、並び順を一番をとれなかった日、かなり帰りの車の中でイライラしてしまっていて、2年生の時、大竹くんが皆勤出来て、皆に誉められていたのに、本人皆勤できなかったのが、悔しかったのか、それ以来、埼大寒稽古皆勤を目指して連覇を続けています。親としては、子供の付き添いをしながら、礼式での先生方のお話を聞き学び、稽古中の様子を観ながら、元気をもらっていました。
駒剣との関わりは、子供が剣道が強くなる上達するという、単純なものではなく、子供の心と体の成長に必要なもので、道場訓「剣は心なり、心正しからざれば、剣又正しからず、剣を学ばんと欲する者は、先ず心を磨け」は、その象徴で、本荘先生がよく礼式で言われる「人間形成道場」は、子供だけではなく、その保護者もそれに習い実行しなければならないと、何にもならないと思います。在校生の保護者皆さま、是非、礼式に出て、先生方のお話を聞いてください。とても、ためになりますよ。そして、残りの駒剣生活を、親子で楽しんでください。6年間ありがとうございました。

高木さん(母)



皆様のお陰で、途中で投げ出さず何とか最後まで続けることができました。稽古から感じたこと、先生方のお言葉から気付いたこと。大切なことを沢山学ばせて頂いたと思います。本当にありがとうございました。

西岡さん(母)



師範の先生方をはじめ、錬成部の皆さま、後援部の皆さま、一緒に練習に励んで下さった皆さま、大変お世話になりました。
娘の愛未は6年の子ども剣道教室から通い始めましたので、1年弱という短い期間でしたが、とても貴重な時間を過ごすことができました。
最初は軽い気持ちで参加した剣道教室でしたが、娘はとても楽しかったらしく「もっと続けたい！」という気持ちになったようです。
木曜日は学校の課外活動の活動日と重なっているため、両立できるのかを確認しましたところ、娘は「大丈夫。やりたい。」と。
やむを得なくお休みになってしまう日もありましたが、課外活動後は急いで支度し、お稽古に参加する事ができました。
疲れていた日もあったと思いますが、そこは本当に頑張ったと思います。
運動全般があまり得意でなく、今まであまり積極的にしようとしなかった娘なので、母親目線ではハラハラすることもありましたが、娘はいたって真剣！
先生方だけでなく、先輩剣士にも、教えて頂く場面もあり、剣道の技術だけでなく人として大切なことを学べる、素晴らしい機会に恵まれたと思います。
残念ながら、恩返しができないままの卒業になってしまいますが、駒場剣友会で触れた温かさや精神は娘の心に残り、場所は変わっても必ずや人生のどこかで活かせるのではないかと思います。
本当に、ありがとうございました。

渡邊さん(母)



柚生は身体も小さく、精神的にも幼くて、自動車以外に興味を示すことがない子どもでした。周りの子たちが習い事でスポーツを始めても、サッカーにも野球にも水泳にも興味を示さず、有り余る体力を発散できる、何か打ち込めるものを、と始めさせた剣道。剣道＝カッコいいと洗脳するために映画「るろうに剣心」を観せて、手の届くところに原作漫画も置くようにしたところ、どっぷりとはまり、剣道教室が終わるころには「侍になりたい！」と言うようになりました。人生で初めて頂いた、剣道教室修了証の賞状を手へ駆け寄ってきたときの笑顔は私にとっても一生忘れられない思い出です。

仕事の都合でどうしても送っていけない木曜も、ランドセルでさえ隠れてしまう小さな背中に、それより更に大きな防具バッグを背負い、私が描いた駒場体育館までの手書きの地図を握りしめて通い始めたのが昨日のことのように感じられます。

不器用でだらしなく、いつまで経っても着装に手間取っていたのに、後輩の面つけを手伝ったり、いつの間にか竹刀の組み換えができるようになっていたり、知らないうちにできることが増えていて、一つずつの成長に驚きと喜びを感じました。学校に行くのが辛くなったとき、それでも剣道には楽しく通うことができたのも、先生方や良い仲間たちに恵まれたおかげです。

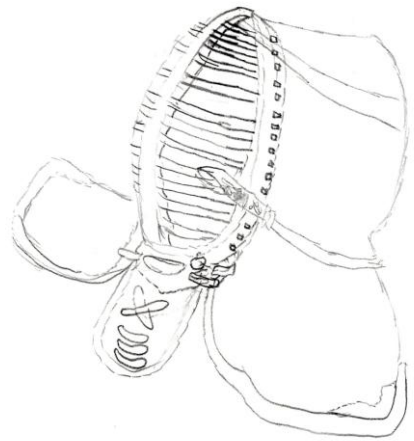
一年下に後輩が入ってこなかったこともあり、いつまでも駒剣の弟分のような“2列目”が定位置だった25年組が、卒業を目前に控え、まさに私たちが見てきた駒剣の先輩方の背中と遜色ない姿で後輩たちを引っ張っている様子は本当に頼もしく、根気よくご指導いただいた先生方と、これまで育てていただいた駒剣という素晴らしい環境に、感謝の気持ちで胸がいっぱいになります。

六送会の準備をしていて、改めて多くの方々に支えられてきたなと思い、入会したときの6年生から今の2年生まで、一緒にお稽古をした小学生会員を数えてみたら100人を越していました。100人もの先輩後輩と切磋琢磨し、ここまでこれたのは、その後ろにいる200人以上の保護者・ご家族の支えがあってこそです。それ以外にも、多くの錬成部の方々や入会期間が重なっていなくてもお稽古にいらしては可愛がってくださるOBの先輩方。数えきれないほど大勢の方々のおかげで今の袖生が、今の6年生がここにいます。先生方が仰る【駒剣はファミリー】という言葉の深さがようやくわかったところで卒業となってしまいますが、駒剣の紡いできた歴史が、今後も末永く続いていくことを願うばかりです。

駒剣で過ごした5年間は、きっと、一生大切なあたたかい時間として記憶に残り、頂いた言葉たちは胸に刻まれていると思います。これから目まぐるしく変化する環境の中で、きっと楽しいだけでなく、大きな壁にぶつかること、時に剣道とは距離を置いてしまうこともあるかと思いますが、それでも、駒剣での時間を思い出し、またここでお稽古をしようと思うことで頑張れる、そんな居場所を持てたことは幸せなことです。

あと数回のお稽古で卒業してしまうのは寂しい限りですが、OBとして、OBの保護者として今後も関わり続けることでご恩をお返ししていきたいと思っております。5年間ありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

石井のetc日記



絵 佐藤くん

